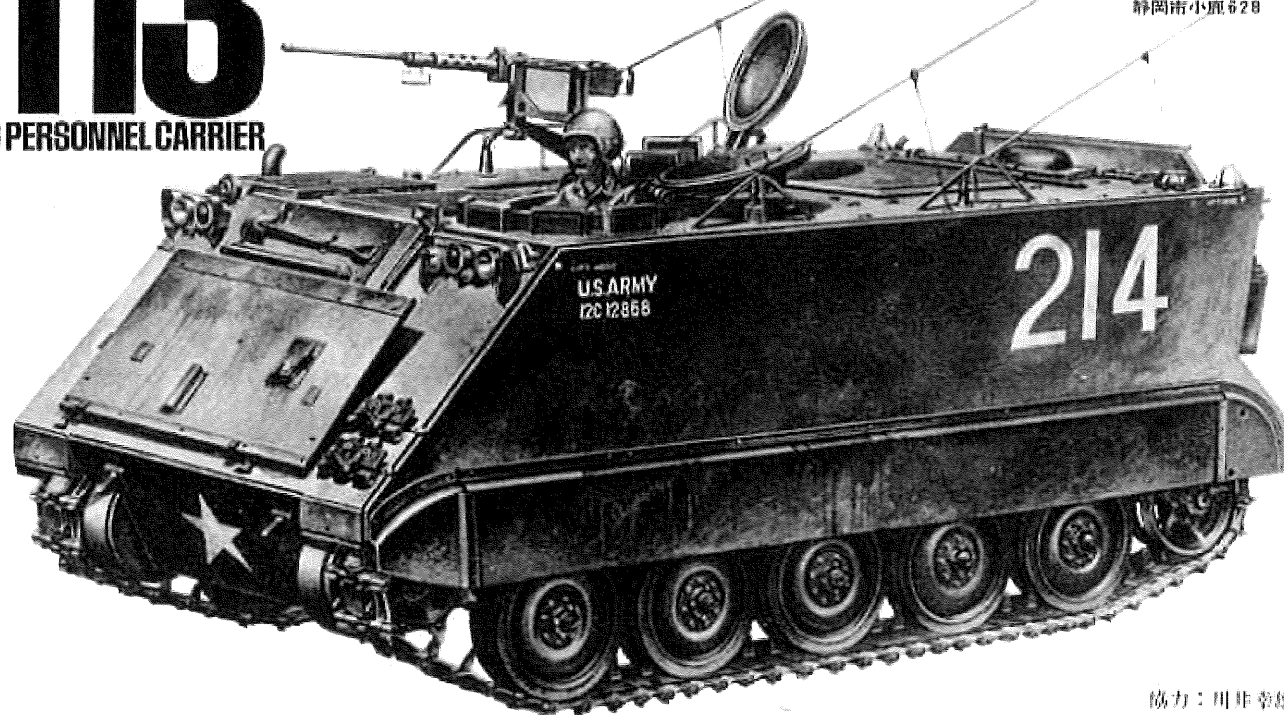


M113

U.S. ARMORED PERSONNEL CARRIER

1/35 IDENTICAL SCALE SERIES NO.41
アメリカM113装甲兵員輸送車

T. KIT NO. MT-141
★ ★
TAMIYA
静岡市小原 628



協力：川井幸雄

1917年11月20日、朝霧について500台のタンクがドイツ軍のヒンデンブルグラインを踏みこみによって突進していった。時速3kmと気の遠くなるようなゆっくりとしたスピードであったが、イギリス軍戦車はドイツ陣内に深さ約5キロ、長さ約10キロにわたって侵攻し、この攻撃は成功するかに見えた。しかし、タンクの攻撃は、それ以上、進むことはできなかった。戦車の後に続き、突破した陣地を確保し、拡大するはずであった歩兵も、騎兵も、ついにその姿を見せなかった。ドイツ軍機関銃隊は、小陣地に分れていたことでイギリス軍戦車部隊の攻撃を逃れ、後に続く歩兵と騎兵に猛攻を浴びせたのであった。戦車部隊は孤立した。歩兵も、そして騎兵も孤立し、別々の戦いを強いられることになったのである。この戦闘は、戦車戦術に重大な教訓を残した。戦車は攻撃兵器であり、攻撃の先鋒としてスピードをもった攻撃をしなければならぬ。そして敵陣を突破した後の追撃戦、又は戦果の拡大にはどうしても歩兵が必要であり、さらに最も重要なことは、その歩兵は戦車の進撃速度についていけるよう、行動力を持つ機械化された歩兵でなければならないということであった。イギリスでは、この点に注目し、フラー大佐などの構想を入れて変型タンクのままであったが、50名の兵士を載せられるマークⅩ歩兵輸送車を作ったのである。これが兵員輸送車の始まりと言えるだろう。しかし第2次大戦で兵員輸送車を最も効果的に使い機械化部隊の思想を実現したのはドイツであった。Sdkfz 251シリーズなど、ハーフトラック型式の兵員輸送車を大量に使い、戦車との共同作戦によって電撃作戦と呼ばれるスピーディな攻撃を可能とし、それまでの戦術の常識を見事にくつがえして多大な戦果を挙げたのである。さらにアメリカにおいてもハーフトラック型式のM3兵員輸送車を大量に使い、第2次大戦は機動力の戦いとなった。兵員輸送車は、欠くことのできない重要な軍用車輛として存在するようになったのである。第2次大戦後、地上部隊の機械化は、いっそ

う推進されることになった。第2次大戦での経験を基に、各国で競って兵員輸送車の開発が続けられ、キャタピラーの採用、水上走行装置の採用など、兵員輸送車の機動力はいっそう向上された。装甲板など、兵士を小銃弾や砲弾の破片から守る防壁も強化された。そして核兵器の登場は決定的であった。一ヶ所に集中した地上部隊は、たった一回の核攻撃で全滅させられる。もはや地上部隊は一ヶ所の集中は許されず、互いに分散し、なお緊密な連絡を保つ必要が生じた。とは言え、分散し、孤立した歩兵は、火砲の攻撃に対しては裸同然と言え、歩兵を守るためにも兵員輸送車は必要不可欠な存在となったのである。1956年、アメリカ陸軍は朝鮮戦争での経験に基づき、それまで機甲師団、機械歩兵師団に主力として装備されていたM59型水陸両用兵員輸送車に代る、新しい兵員輸送車の開発を要求した。この開発にあたっては、特に空輸が可能で、及び軽量で使いやすいことが要求された。この要求に基づき、新型兵員輸送車の装甲板には、アルミ合金製装甲板を新しく決定、1957年、アメリカ陸軍資材司令部はフォード・マシナリー・コーポレーションに必要な性能を備えたアルミ合金製装甲板の開発を命じたのである。FMCは、カイザー・アルミニウム化学コーポレーションと協力、小銃など小火器の弾丸、および砲弾の破片に十分に耐えられる性能を持ったアルミ合金の開発に成功、1959年には3輻の試作型T113装甲兵員輸送車が完成。改良型のT113E1を経て実用試験の結果、M113型装甲兵員輸送車として制式採用されることになり、1960年の中頃には、最初のM113兵員輸送車が生産ラインから送り出され、第一線部隊への装備が開始されたのである。以来M113は、現在までに3万台以上が生産され、アメリカ陸軍だけでなく広く自由主義諸国で使われるようになり、傑作の名を高めているのである。1962年、西ドイツはFMCに1132台を発注、またスイス陸軍は、SPZ63 APCの名称で800輻を発注した。さらに1963年にはカナダ

陸軍は国産のボブキャットAPCの生産計画を中止し、M113APCを採用した。特にイタリアはアメリカとの共同生産協定を調印し、ラスペチアのオート・モーターのSPA工場でもM113の生産を行っている。M113は、アメリカ、カナダ、スイス、イタリア、オランダ、デンマーク、スペイン、ギリシア、トルコ、イラン、パキスタン、タイ、西ドイツ、南ベトナム、韓国、ノルウェー、ヨルダンの各国陸軍に採用され、共産圏諸国を除いて、世界で最も多く使用され、自由主義諸国陸軍の歩兵の足として活躍しているのである。全長約4.9m、幅約2.7m、高さ約2.2m、戦闘重量約10トンと軽量小型、扱いやすさを重視しドライバーを含め13名の完全武装の小銃分隊員等を輸送できる軽量装甲兵員輸送車として設計されたM113は、同時にカーゴ、担架車、兵器運搬車、指揮車および偵察車としての多用途性も持たされている。M113の車体前部は左側が操縦室、右側がエンジンルーム。中央部および後部は兵員室で車長と11名の小銃分隊員が搭載できるシートが備えられている。中央部の頂部には口径50(12.7mm)ブローニング機関銃用の銃架がついた車長用キューボラがあり、さらにその後部に長方形のハッチ、尾部には兵員の乗り降りすばやく行うために大型のランプがつき、このランプは操縦室の開閉装置によって開閉される。またM113は水陸両用型であり、水上走行中の推進はキャタピラを回転させることによって行なわれる。また舵は無く、水上での方向転換は、陸上の場合と同様に左右のキャタピラの速度を変えて行なわれる。車体前部には水上走行のための波切り板がつけられ、水上走行中にはこれを超して、上部が波をかぶるのを防ぐ。エンジンは、試作型には出力205馬力のクライスラー・361B型4サイクル・V型8気筒ガソリンエンジンが採用されたが初期生産型では215馬力のクライスラー・V型8気筒4サイクルガソリンエンジン・A-710型が採用され、さらに量産型では同じくクライスラー社の75M型4サイクル・OHV

1/35 シングルM-113(30)

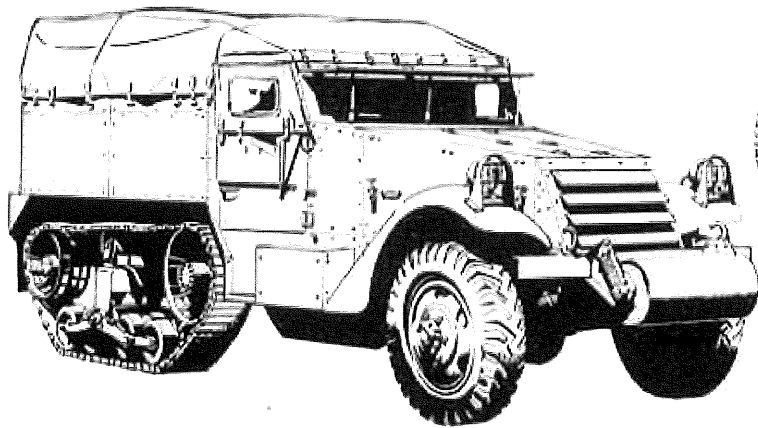
・V型8気筒水冷ガソリンエンジン出力215馬力に換装された。駆動は前部のスプロケットホイールによって行われ、トランスミッションは前進4段・後退1段で、最高速度は約64km/h。車内に303リッター入りのガソリンタンクを持ち、航続距離は320kmと言われている。サスペンションは、上部転輪が無い、クリスティー型で、スプリングにはトーションバーが使用されている。主武装は、車長用銃塔に口径50(12.7mm)ブローニング重機関銃M2を搭載する。この武装についてはM113がベトナムで使用された経験から、ブローニング12.7mm機関銃以外に、補助装甲板つきの口径7.62mm軽機関銃が2丁、または攻撃用兵器として、2門の57mm無反動砲M18などを装備したものが一部ある。またM113は装甲兵員輸送車を基本とし、数多くのバリエーションが作られ、機甲師団および機械化歩兵師団に装備されている。M106自走107mm迫撃砲、M125自走81mm迫撃砲、M132自走大炎放射機、M577装甲指揮車などがあり、各種のミサイル運搬車もM113をベースとして

作られた。M113をはじめ、これらの車輛はベトナム戦に多数が投入され、その機動力をフルに生かして活躍したのである。軽量小型の扱いやすさ、水上走行も可能という機動性の高さ、さらには空輸も可能というM113は、全世界的に完備されたアメリカ空軍の空輸体制を考え合わせると、その意味するところは非常に大きい。M113は、いつ、いかなる時にも、海上以外、あらゆる場所に歩兵をすばやく輸送し、効果的な打撃を相手に与えることができるのである。しかし戦術面での進歩は、この傑作装甲兵員輸送車M113も、すでに過去のものに変えつつある。ベトナム戦においても明らかにされたことであつたが、M113で運ばれた兵士は、いったん下車した上で戦闘をしなければならぬ。この際、歩兵はやはり以前と同様に何の防壁も持たない裸同然の状態におかれるのであり、M113の最大の弱点となつた。M113は車体に銃眼を備えていないために、兵士は室内に閉じ込められたまま、戦闘ができない状態におかれる。この弱点について、M113は、戦

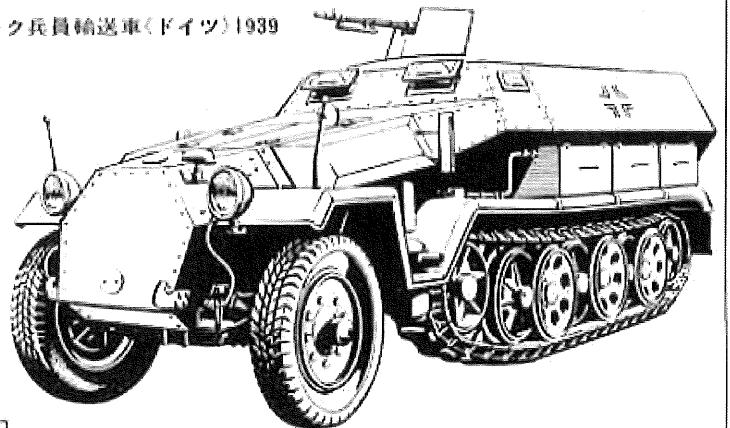
場に向つて歩兵を輸送するだけのタクシーであるとき、現在では言われるようになっているのである。この点に注目し、早くも新しいタイプの装甲兵員輸送車を開発したのは西ドイツであつた。西ドイツの新しい装甲兵員輸送車マルダーは、20ミリ機関銃を主砲として備え、車輛に兵士が乗ったままでの戦闘が可能で新しい分野の軍用車輛として、装甲歩兵戦闘車(Armoured Infantry Combat Vehicle)と呼ばれる。またアメリカ陸軍でも同種の「動くトーチカ、動く歩兵陣地」とも言うべき装甲歩兵戦闘車の開発が行なわれていると言われている。たしかに、現在ではM113は時代遅れになりつつあると言える。しかし3万台以上が生産され、現に使用されている事実も忘れることはできない。M113は、真に兵員輸送車の傑作と呼ぶに値する車両といふことができるだろうし、たとえ戦術が進歩し、旧式と言われようとも、一代の傑作車としての価値は少しも損なわれることはないのである。

アメリカ・ドイツの兵員輸送車の移り変り

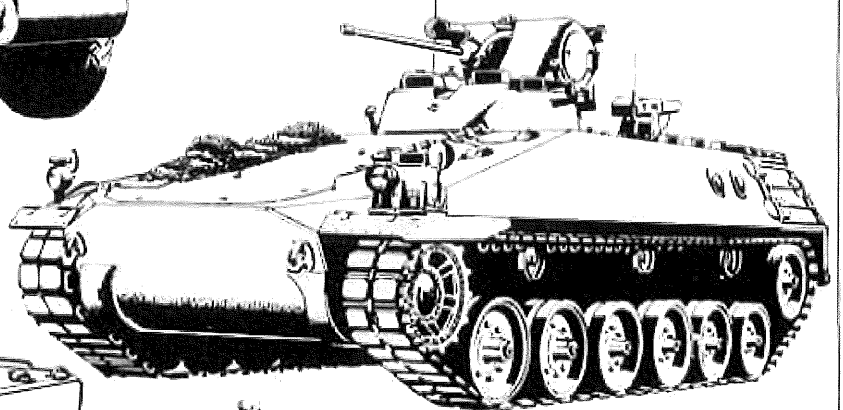
M3兵員輸送車(アメリカ)1939



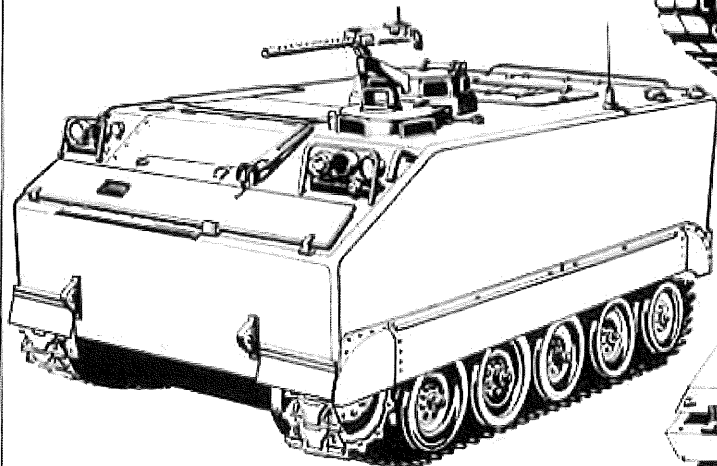
ハノマーク兵員輸送車(ドイツ)1939



マーダー兵員輸送車(ドイツ)1968



T113兵員輸送車(アメリカ)1959



M113後期型兵員輸送車(アメリカ)



PARTS

はじめに各部品をたしかめましょう。

A 部品

1. 不要部品
2. テールライト
3. 機銃
4. 不要部品
5. 不要部品
6. フェンダー(B)
7. フェンダー(A)
8. 跳梁
9. 押着受け
10. 後部平すり
11. 押着
12. マフラー
13. ロードホイール(A)
14. ロードホイール(B)
15. ギヤケース(A)
16. ギヤケース(B)
17. 水タンク
18. アイドラーホイール(C)
19. アイドラーホイール(A)
20. アイドラーホイール(B)
21. 不要部品
22. 不要部品

B 部品

1. スカート(A)
2. 航行安定板
3. ランプ
4. つり下げフック
5. エンジンルームカバー
6. ライトカバー(A)
7. ライトカバー(B)
8. 工具
9. 斧
10. 工具
11. ライト(B)
12. ライト(A)
13. ドライバースハッチ
14. ハンマー
15. フック
16. ランプ用ヒンジ
17. フロントパネル
18. コマンドーズハッチ
19. ハッチどめ
20. キューボラ
21. エンジンルームハッチ
22. ペンチレーター
23. 補助キャタピラ
24. ワイヤロープ
25. ハッチバンパー
26. ランプドアー取手
27. 航行安定板支柱(B)
28. 航行安定板支柱(A)
29. スコップ
30. 平すり(B)
31. 平すり(C)
32. 平すり(A)
33. 牽引フック
34. ホーン
35. スカート(B)

C 部品

1. 車体上面板
2. カーゴハッチ
3. カーゴハッチどめ(A)
4. カーゴハッチどめ(B)

F 部品

1. ドライブスプロケット外
2. 人形台
3. スイッチ止め部品
4. ドライブスプロケット内
5. スイッチレバー
6. スイッチパネル
7. 人形
8. 電池受けおさえ
9. 電池ボックス

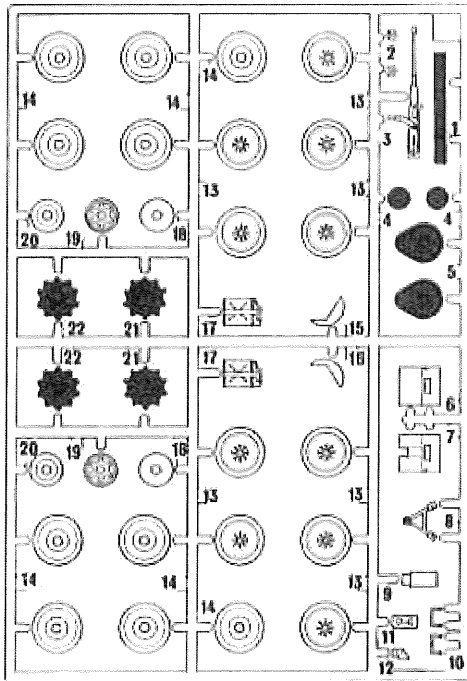
P 部品 (ポリキャップ)

1. ホイルキャップA
2. ホイルキャップB

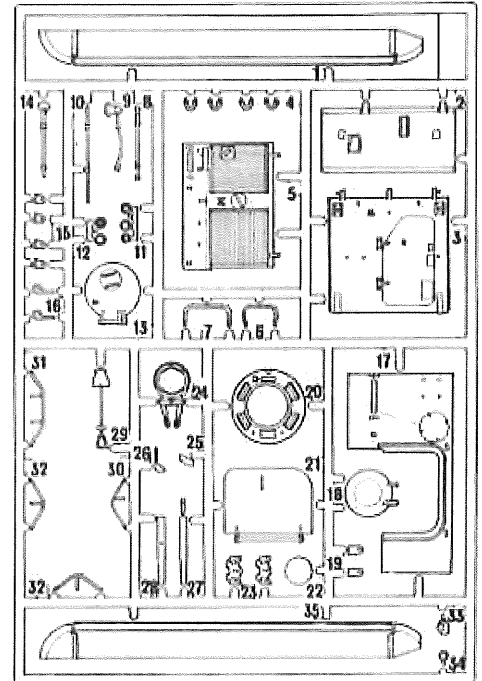
M 部品

1. 8枚ピニオンギヤ
2. ギヤボックス
3. 電池受金具小
4. 電池受金具大
5. 3φ×4ビス
6. スイッチ金具

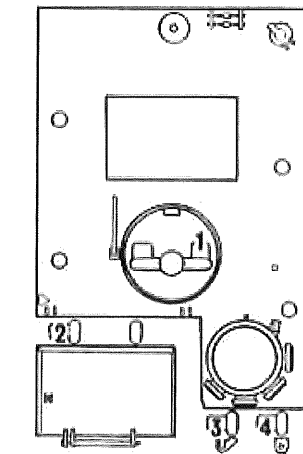
A 部品



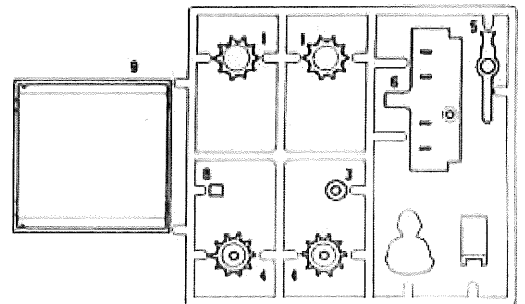
B 部品



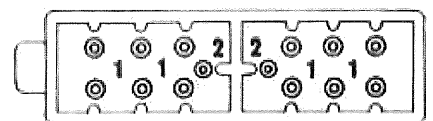
C 部品



F 部品



P 部品



★部品請求にはこのカードが必要です。

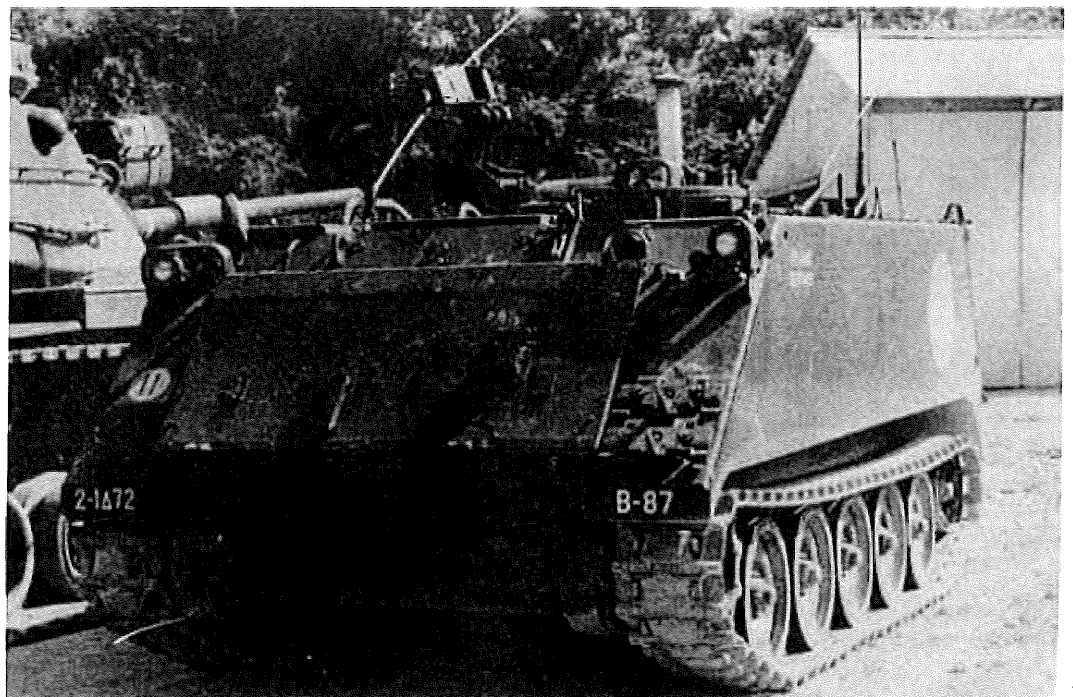
M113装甲兵員輸送車

1/35シングル

部品を紛失したり破損なされた方は、このカードの必要部品を丸でかみ代金を現金書留か、小為替で、田宮模型企画部検査課迄お申し込み下さい。

A 部品	320円
B 部品	320円
C 部品	250円
F 部品	280円
車体下部	320円
ポリキャップ	140円
キャタピラ	180円
ギヤボックス袋組(モーター無し)	280円
マーク	120円

7904





作る前に
お読みください

★キットを組立てる前に必ず説明文を読んで下さい。

★このキットにはRE-26モーターと単2乾電池2本が必要です。別にお求め下さい。

★ナイフ、ドライバー、ニッパー、ヤスリ等を用意しましょう。

★部品をランナー（枝）から切りはなす場合には手でもぎとらないでニッパーやナイフ等でいいに切り取って下さい。

★接着剤はあまり多くつけずに少しづつ両面につけましょう。

これは塗装色指示のマークです。

1 ホイルのくみたて

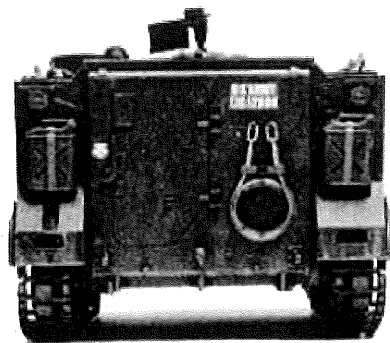
ドライブスプロケット2個、ロードホイル10個、アイドラーホイル2個を作して下さい。各ホイルにはさみこむポリキャップは接着しないようにして下さい。

2 ホイルとリヤハッチのとりつけ

各ホイルは接着せずに押し込みます。又リヤハッチは可動式です。B16でおさえ接着が乾くまでセロファンテープ等で固定しておきます。

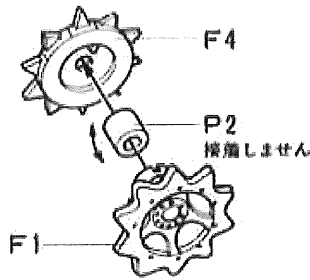
3 車体後部のくみたて

各部品は取付位置をたしかめてからとりつけて下さい。

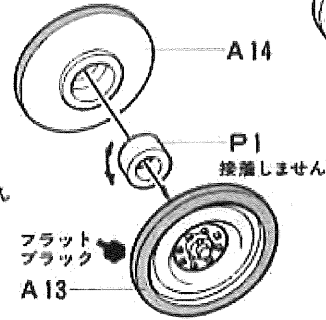


1 ホイルのくみたて

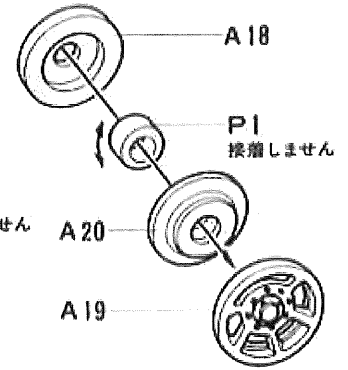
〈ドライブスプロケット〉
2個作ります



〈ロードホイル〉
10個作ります



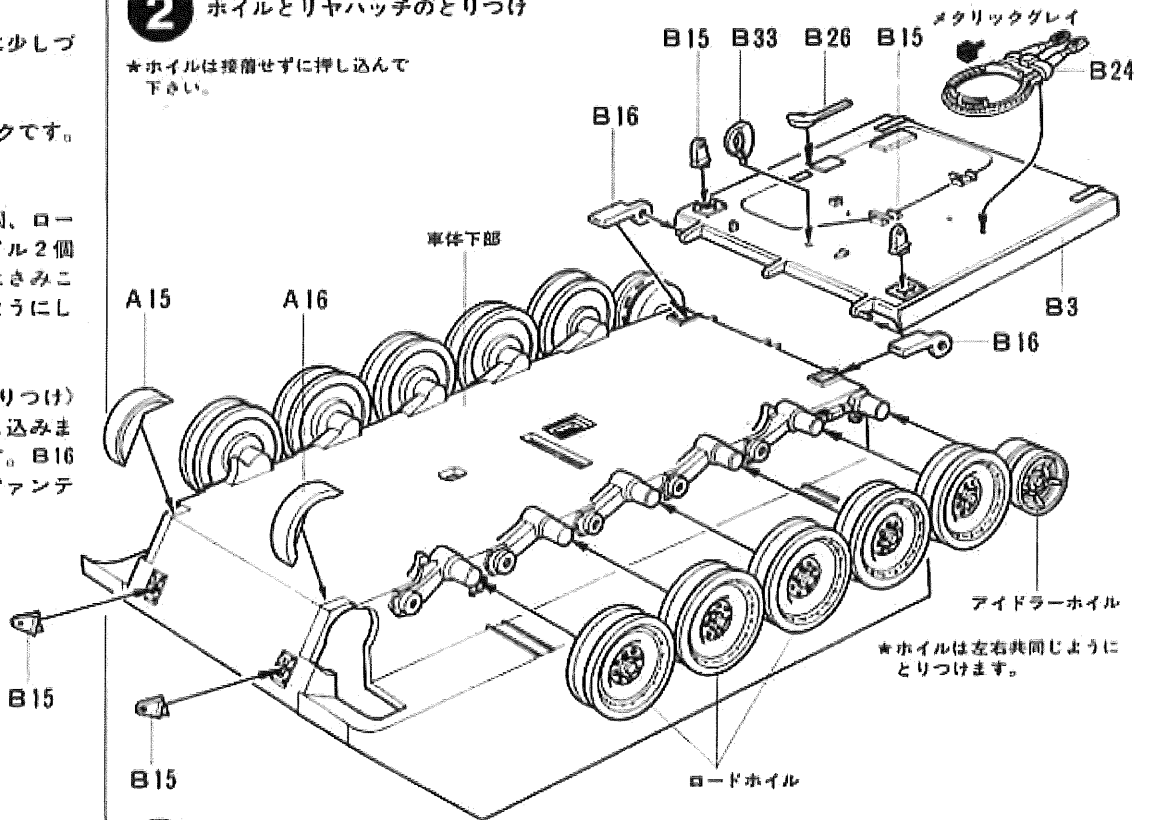
〈アイドラーホイル〉
2個作ります



★ポリキャップP1、P2に接着剤がつかないように注意して下さい。

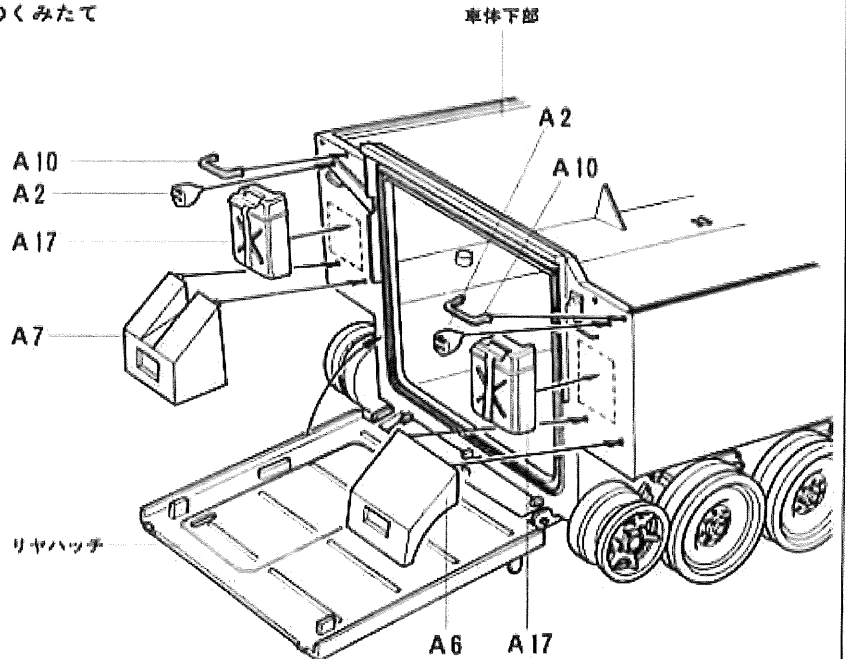
2 ホイルとリヤハッチのとりつけ

★ホイルは接着せずに押し込んで下さい。



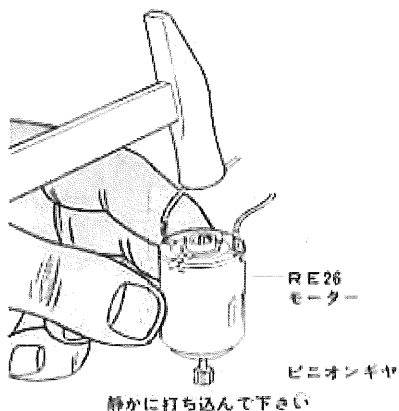
★ホイルは左右共同じようにとりつけます。

3 車体後部のくみたて



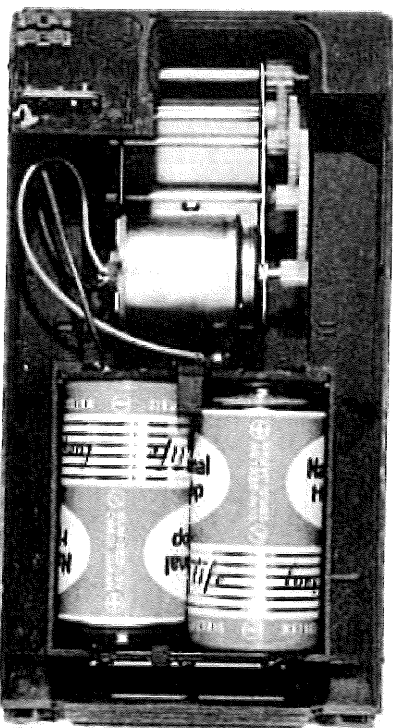
4 〈モーターのとりつけと配線〉
 ビニオンギヤM1はモーターに打ち込みます。モーターコードを配線するときはコードの+、-をまちがえないように配線して下さい。

〈ビニオンギヤの打ち込み〉



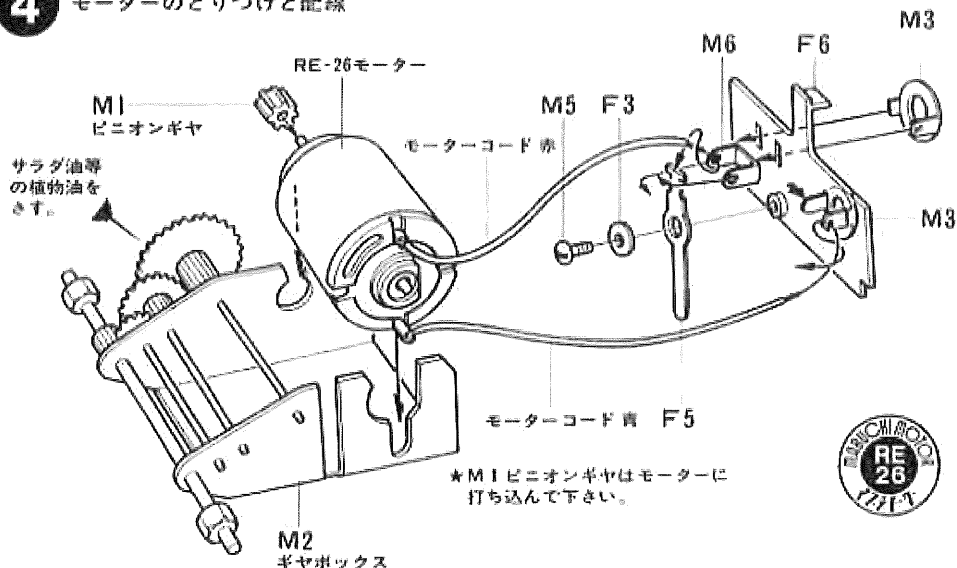
5 〈電池ボックスのくみため〉
 F8はM4電池受金具のおさえになります先にM4を取付けてからF8をとりつけて下さい。

6 〈ギヤボックスのとりつけ〉
 ギヤボックスは左側を先に下部の穴にとうしてから右側をとりつけて下さい。電池を入れギヤボックスのテストをして下さい。

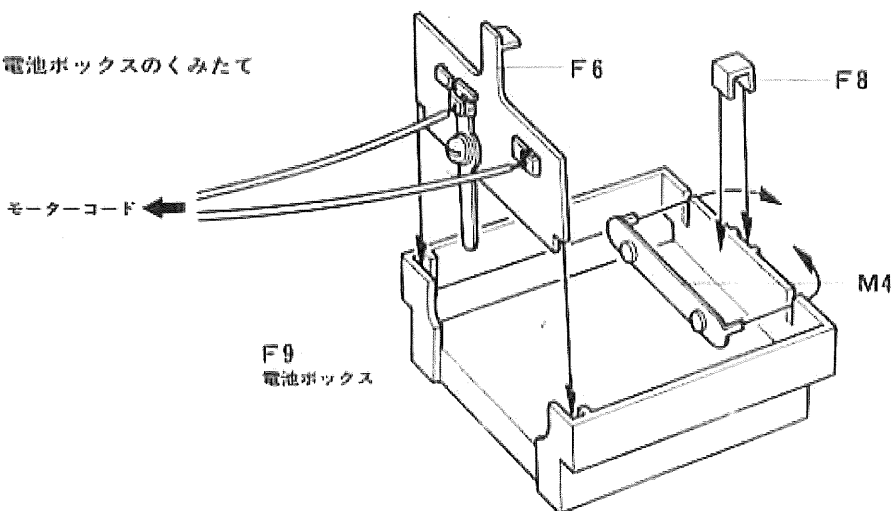


取扱い上の注意
 1. 乾電池の正負極の表示をよく確認し、正しい向きに挿入して下さい。
 2. 火気に注意し、燃焼をよくして下さい。
 3. 故障に合わない様子を良く確認して下さい。
 表示者 S.Z.3000 S.Z.3000 S.Z.5013

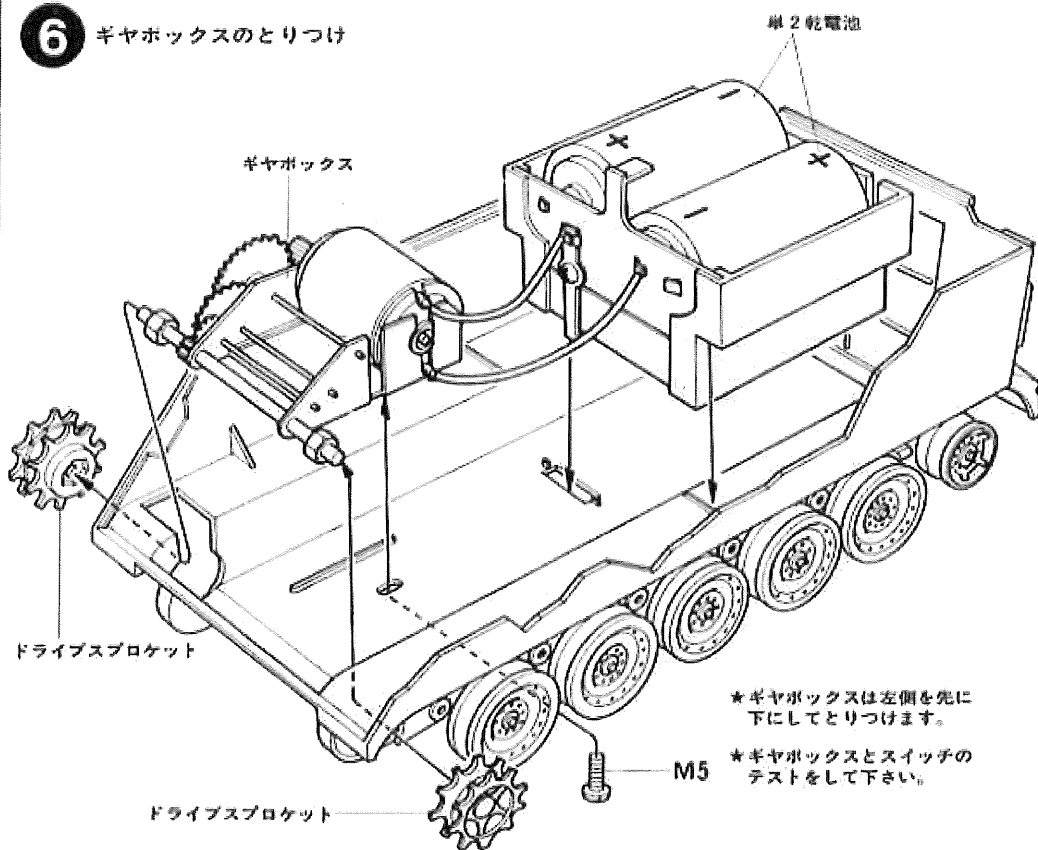
4 モーターのとりつけと配線



5 電池ボックスのくみため



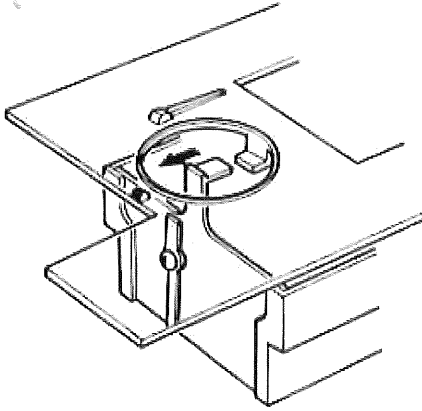
6 ギヤボックスのとりつけ



8 〈上部パネルのとりつけ〉

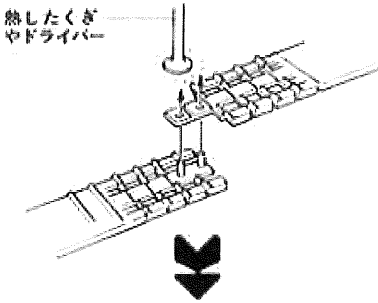
上部パネルは下図を参照にしてとりつけて下さい。接着しないで下さい。

〈上部パネルのとりつけ〉



〈キャタピラのくみため〉

熱したくぎ
やドライバー



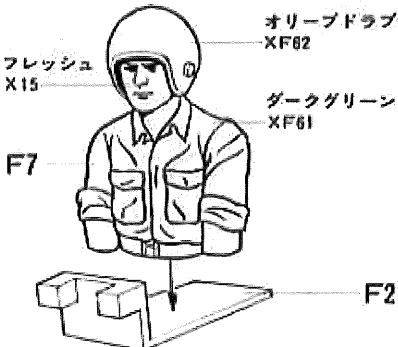
押しつぶして下さい。



★この形につぶして下さい。

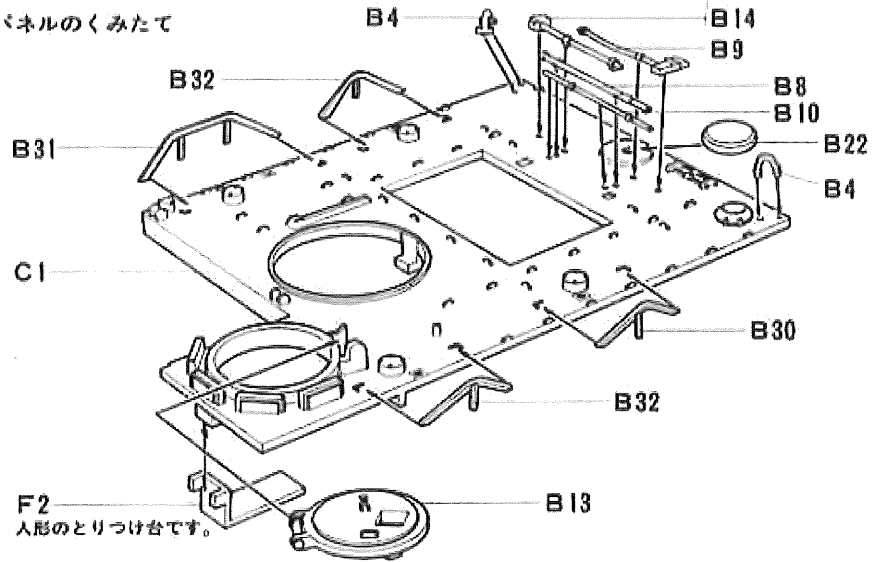
★キャタピラが切れたり焼止めが弱かった場合には図の様に、黒糸かホッチキスで補強して下さい。

〈人形のとりつけと塗装〉

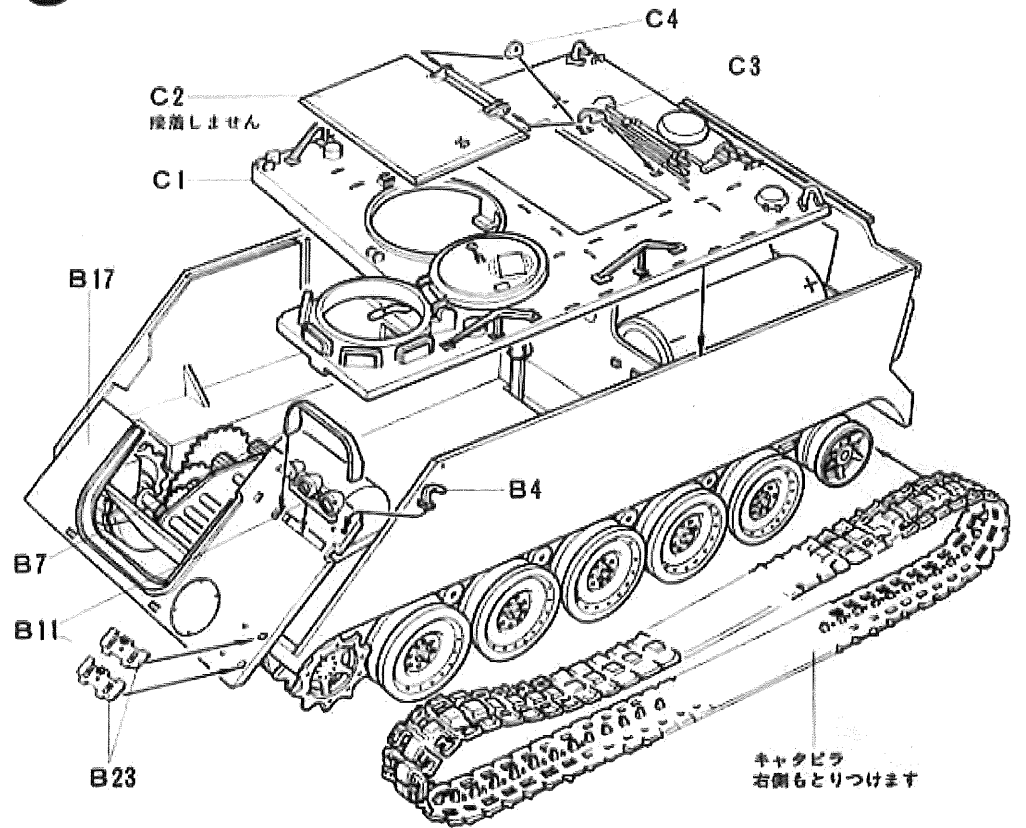


★人形は塗装をしてからとりつけて下さい。

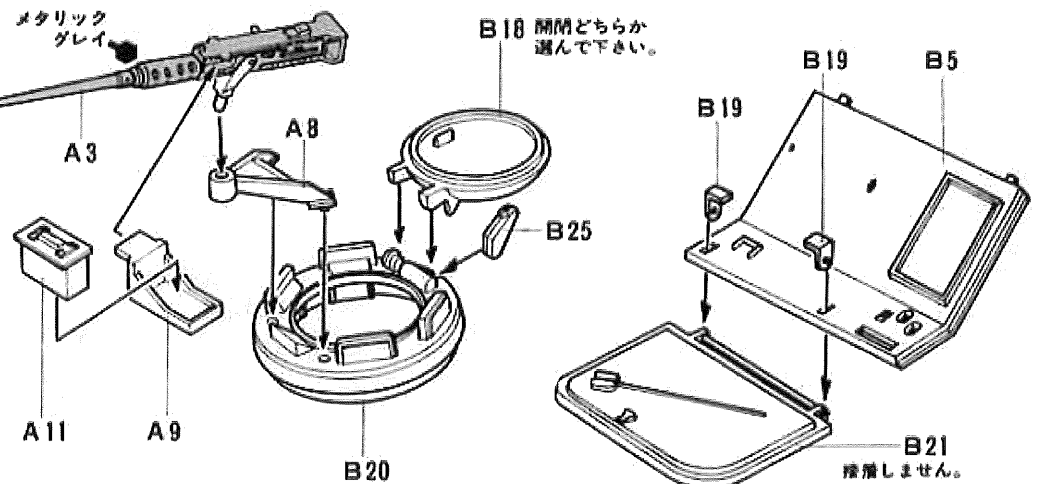
7 上部パネルのくみため



8 上部パネルのとりつけ



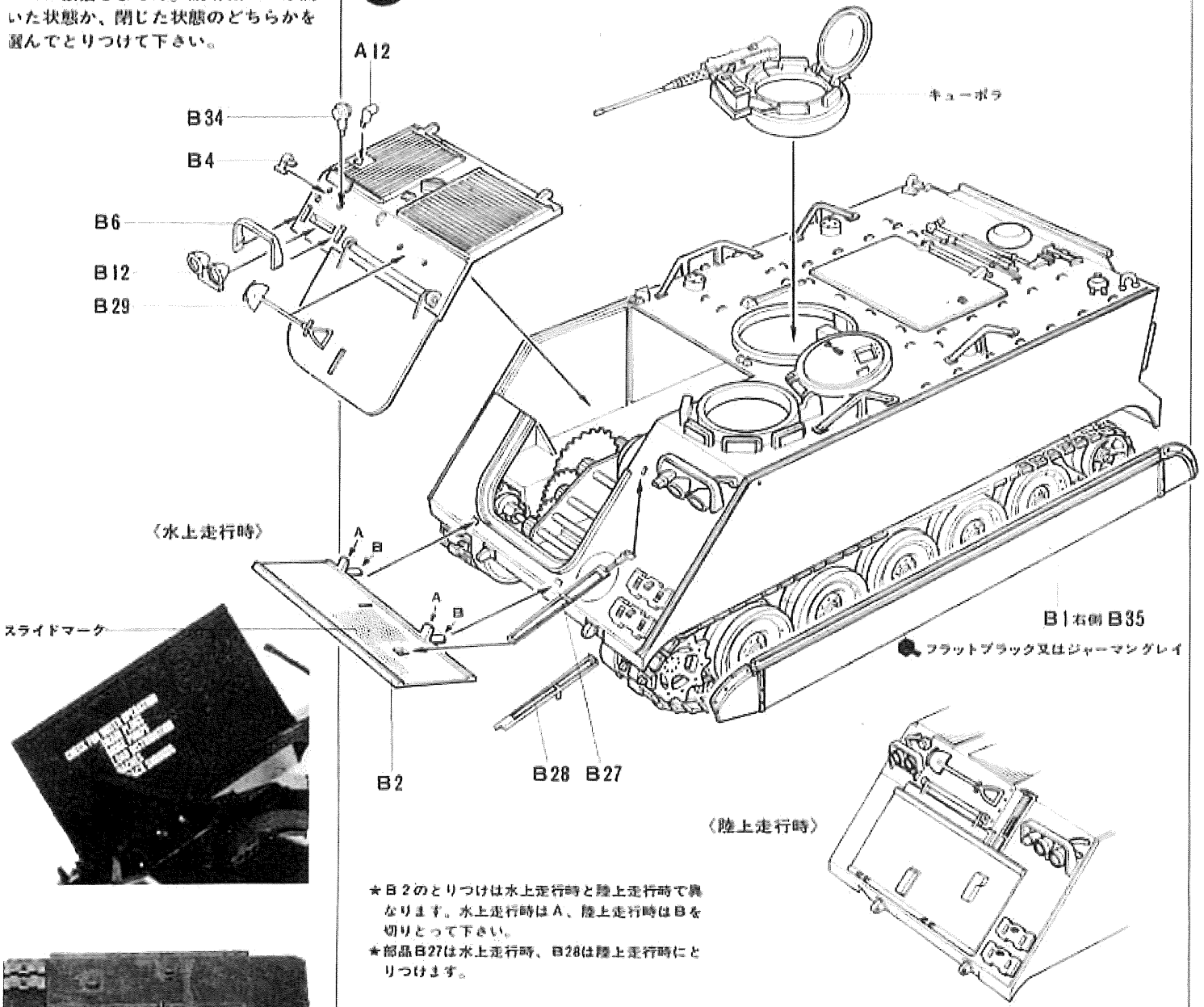
9 キューボラとエンジンカバーのくみため



10 〈M-113の完成〉

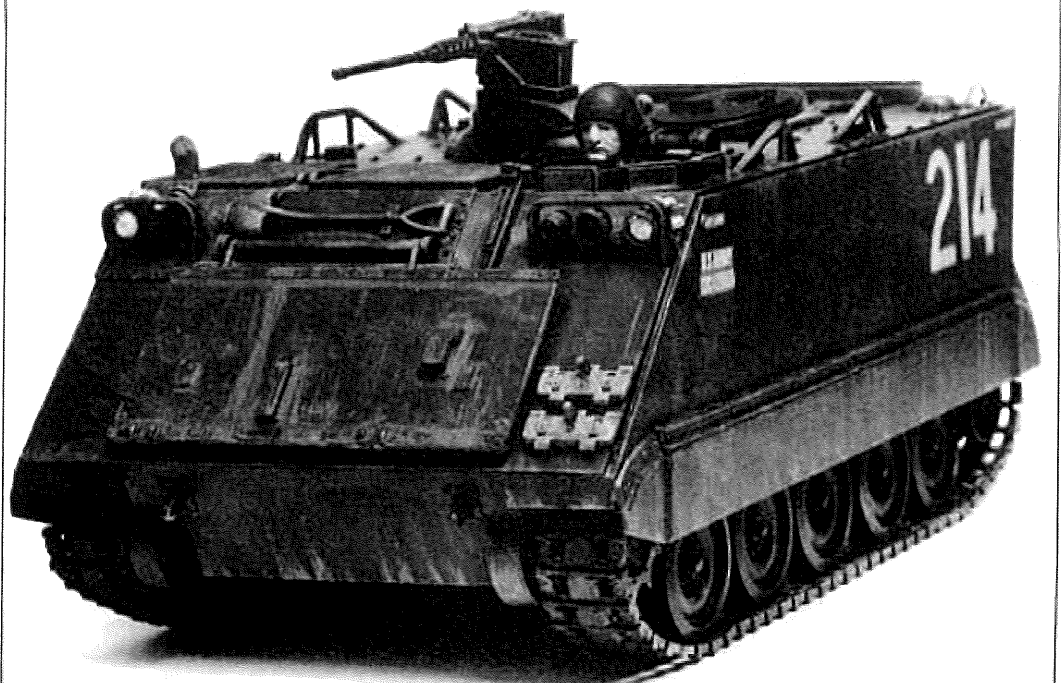
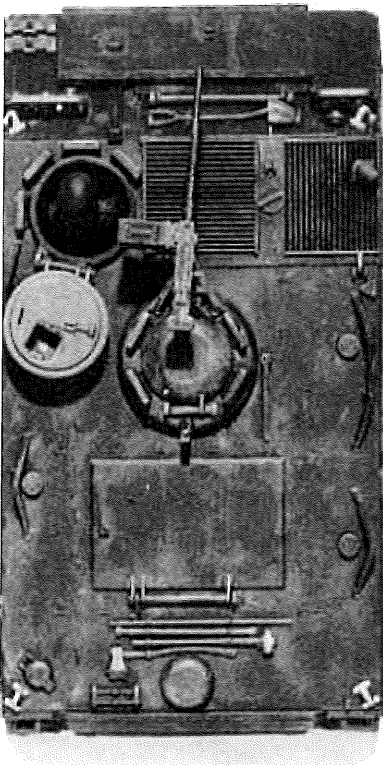
キューボラ、エンジンルームカバー共に接着しません。波切板B2は開いた状態か、閉じた状態のどちらかを選んでとりつけて下さい。

10 M-113の完成



★B2のとりつけは水上走行時と陸上走行時で異なります。水上走行時はA、陸上走行時はBを切りとって下さい。

★部品B27は水上走行時、B28は陸上走行時にとりつけます。



PAINTING



APPLYING DECALS

アメリカ軍用車輛に一般的に使用された塗装色は、オリーブドラブの単一色です。工場の生産ラインから出てきたばかりの新車の状態では、機銃、キャタピラをのぞいてはすべてこのオリーブドラブ一色で塗られています。

★戦車の実感を出す方法にいわゆる、「よごし」があります。訓練時、砂漠や泥沼を走って、よごれた感じやエキゾストパイプの排気口の附近のすすのよごれなど、その状態によって種々のよごしがあります。

★戦車細部の塗装では、ヘッドランプ（グロスホワイト）テールライト（グロスレッド）機銃（メタリックグレイ）が車体色とは異っています。

（使用する塗装）
大きな面を塗るときはスプレー式のタミヤカラーが便利です。又細部の塗装には筆塗りのパクトラタミヤを使用して下さい。各部の塗装はパクトラタミヤカラーで指示してあります。

フラットブラック	X F 1
メタリックグレイ	X F 56
オリーブドラブ	X F 62
ダークグリーン	X F 61
グロスホワイト	X 2
グロスレッド	X 7
フレッシュ	X 15

PACTRATAMIYA

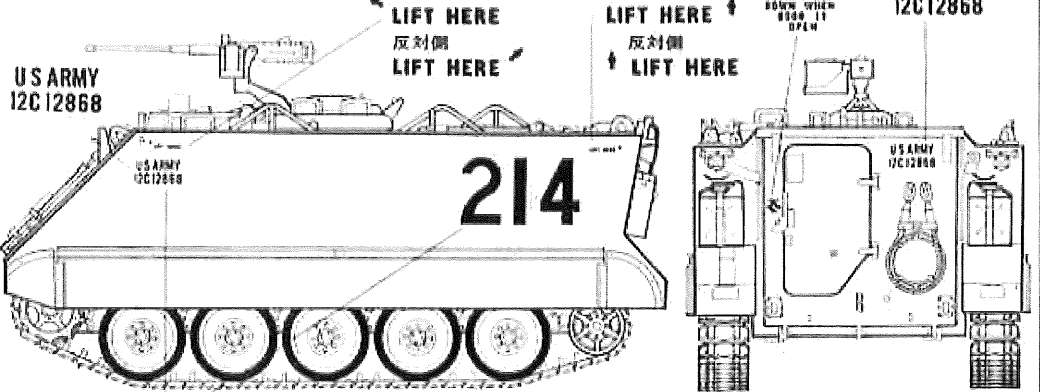
（M113の改造型）
M113には多くの改造型がありますが、ジャングル戦の経験から、キューボラとM2ガンに防弾板をもうけ、新にM60機銃2丁を後部ハッチにとりつけたタイプのももあります。プラバン等で工作してみるのもおもしろいでしょう。



★スライドマーク中のA.B.C.D.E.F.G.Hは不要マークです。

＜アメリカ軍所属のマーク例-1＞

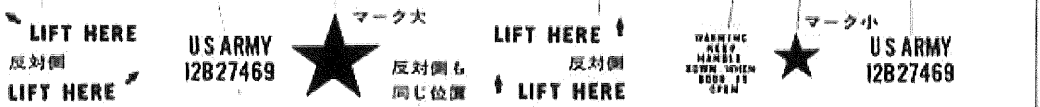
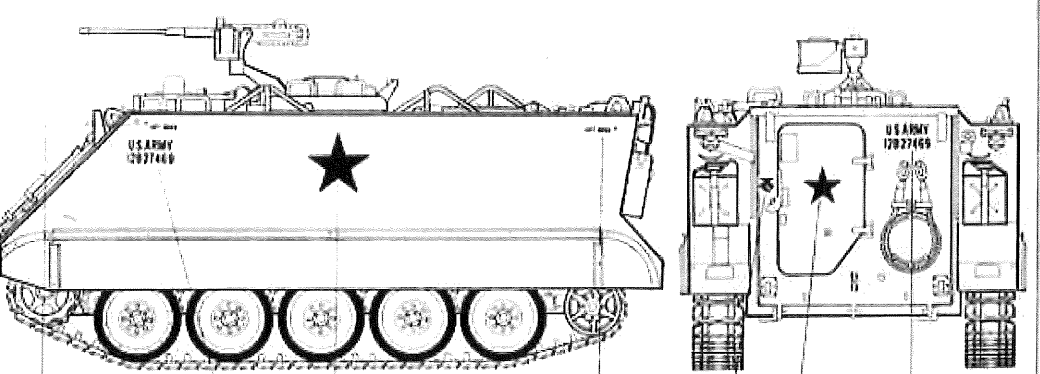
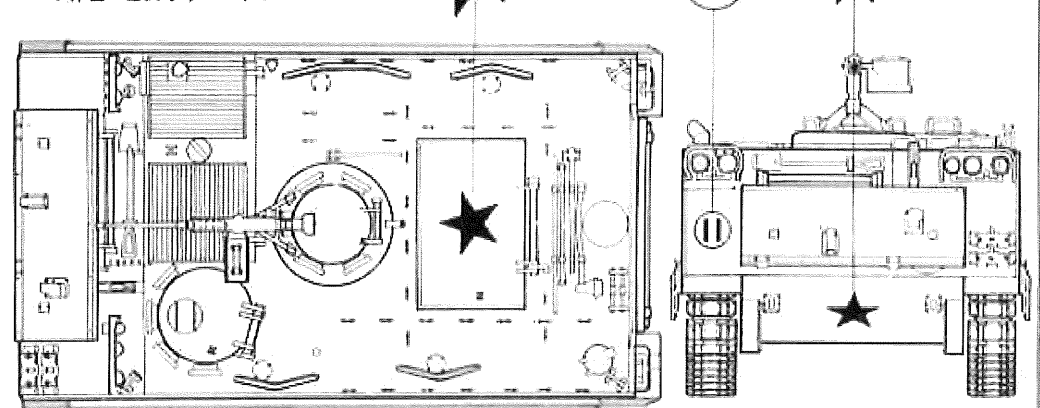
車体色 全面オリーブドラブ



左右共に同じ位置にはって下さい

＜アメリカ軍使用のマーク例-2＞

車体色 全面オリーブドラブ



＜西ドイツ軍所属M113のマーク＞ 左右共に同じ位置にはります

車体色 全面オリーブドラブ



車体上部と後部にはマークが付きません。